

第2回東京都認知症対策推進会議の議論のまとめ

1 第1回認知症対策推進会議の議論のまとめについて

- (1) 説明（事務局）
- ・第1回推進会議での議論の要旨を説明
- (2) 主な意見（特になし）

2 仕組み部会における検討状況

- (1) 説明（林部会長・事務局）
- 認知症地域資源ネットワークモデル事業
- ・各モデル地区におけるこれまでの認知症への取組み、モデル区市内のモデル的エリアの紹介、コーディネート委員会の構成等について説明
- 認知症支援拠点モデル事業
- ・5つのモデル事業者における2年間の取組計画、特徴を説明
- 仕組み部会の検討状況
- ・開催実績、上記2つのモデル事業の進行管理・検証状況について説明
- (2) 主な意見
- 2つのモデル事業のあり方について
- ・「認知症地域資源ネットワークモデル事業」も「認知症支援拠点モデル事業」も共に動き始めたばかりであるが、「支援拠点モデル事業」については、拠点だけが動くのではなくて、常に自治体の取組も連動させることが大切。
 - ・双方のモデル事業がそれぞれの成果を吸収し合いながら進めていくことにより、一層発展的に仕組みが構築できるのではないか。
- 認知症サポーター養成講座の展開について
- ・認知症サポーター養成講座は、認知症について、直接介護に関係のない一般の人に知ってもらおうという点で大変良い取組みであると思う。今後、一般の人の理解促進を一層推進する必要があるのではないか。
 - ・モデル事業の一環として認知症サポーター養成講座を開催している自治体、事業者もあるが、サポーターを養成して終りではなく、サポーターが認知症の人と家族を支えるためのネットワーク作りや、拠点となる事業者と連携することによって、認知症の人と家族の支援に入っていけるかが重要である。今後はサポーター養成と、それが実践につながるような展開を期待したい。

3 医療支援部会における検討状況

- (1) 説明（繁田部会長・事務局）
- 現状把握
- ・二次保健医療圏ごとの医療資源等の状況（病床数、在宅療養支援診療所数、訪問看護ステーション数等）及び、認知症の経過と医療依存度について説明
- 医療支援部会の検討状況
- ・開催実績、認知症の医療に関わる立場及び議論の進め方についての整理、MCI～軽度の段階について検討を開始している旨を説明
- (2) 主な意見
- 受診の勧奨について
- 行政主体の健康診断の中に物忘れテストを加えるなど、本人のプライドを傷つせずに無理なく受診につなげられるような手段は考えられないか。
- 本人に認知症の疑いがあることを話さないまま受診するのは、尊厳の問題、その後の治療等に向き合うことを考えると、望ましくない。
 - 様々な認知症のチェックリストが開発されているが、これらは認知症の疑いに気づき、本人・家族が話し合うためのきっかけとして活用してほしい。
 - 自分から疑いを持って相談窓口にくるケースでは、認知症であることは少ないと聞く。周囲の気づきを受診や本人との話し合いに繋がられるような仕組みや機運づくりが重要。
- 認知症の人が眼科・耳鼻科等多様な疾患で医療に関わっているのに、認知症であることが見落とされているケースがある。これらの科の医師にもいち早く認知症の診断等に繋ぐ窓口となっていきたい。
- 特に独居の人に対する周囲の気づきを受診に繋げる仕組みについては、「仕組み部会」とも連動して検討していただきたい。
- 医療へのかかり方
- 認知症の場合、本人の状況を家族が代弁することも多い。家族がどういう点を医師に伝えたらよいのか、また医師はどのような点に注意して話を聞く必要があるのかを議論していただきたい。

4 認知症シンポジウムについて（報告）

- ・平成19年9月13日開催の認知症シンポジウムについて、テーマ、基調講演やシンポジウムの内容及び参加人数等開催実績について報告